

# 1番・渡辺龍 3安打1打点でコールドけん引



# 14安打11点で新しい景色 会津北嶺

準々決勝3試合が行われた。創部6年目の会津北嶺は、伝統校の磐城を11-4の7回コールドで下して初の4強入りを果たした。第2シード・学法石川は昨夏準Vの光南を12-2の5回コールドで破り11年ぶりの準決勝進出を決めた。県営あづま球場の第2試合、田村・郡山は降雨のため、きょう22日に順延となった。

**甲子園の道 第11日**

2023

第105回全国高校野球選手権記念福島大会

(21日)ヨーク開成山スタジアムほか

年ぶりの準決勝進出を決めた。県営あづま球場の第2試合、田村・郡山は降雨のため、きょう22日に順延となった。

▽準々決勝(ヨーク開成山)  
会津北嶺 10002002  
会津北嶺 1800200 X 114

(登)藤崎、今原、折所  
(守)佐藤、藤川、高山  
▽三塁打 野村、井上(各)  
▽二塁打 藤、高橋(各)

## 17年に校名変更

6年目の夏、会津北嶺の初めて見る景色はまだまだ続く。14安打11得点と攻守で磐城を圧倒。4強入りに「凄い選手たち」と目を細めた木口監督(29)は「去年の秋に支部優勝し、春は県8強。成功体験を積み重ねたことが(夏に)つながった」と喜びをかみしめた。

若松第一から2017年に現校名に変わり、野球部は翌18年に再スタートを切った。だが、その年の夏、日大東北に0-39と完敗。19年以降、当初はコーチとしてチーム

# 猛打初4強



<会津北嶺・磐城>初の4強入りを決め、声援に応える会津北嶺ナイン ④ 3安打1打点の渡辺龍

仲間とともに野球に打ち込んで来たのでち込んで来た渡辺龍。こゝろ改善に汗を流し、来試合の前日には「体が1ボールをしっかりと扱

じき返せた」と、大会期間中も成長を見せつけた。木口監督が「足もあるし、彼が1番はいない」と信頼を寄せるリードオフマンが、チームを勢いづけている。

全員が掲げる今夏の目標は「県で一番になる。達成まであと一勝。渡辺龍は「どんな形でも点を取って絶対に勝ちたい」と、まずはあす23日の準決勝に闘志をみせさせ

(鶴巻 裕樹)